

ヒツパート、バーリノアホートンの西印度船乗組となりて、ジオン、リースポーン君と共に差遣せられぬ。リースポーンは以前、サツクリングと共に、職を海軍に奉じたる人なり。

航海功を終へて、チエーサムに凱旋せしは、正に千七百七十二年七月なりき。若し夫れ、予をして進歩せる教育なからしめんか、艦隊に軍職を奉ずることの畏懼より轉して、通常の航海者となり、前の有力家、後の篤行家たりとの傳説を残して、一の航海者を以て終りしやも、亦知るべからざるなり。云々。

イギリス史、否、寧ろ、世界史上卓然たる一英雄、ネルソン生涯の立脚地は、斯の如くなり。

其の偉蹟と光榮に至りては、之を筆にすれば、

光彩餘りありて、却て其の實を傷けずんばならず。ナルソンの逝くや、舉國吊するに國民の不幸を以てし、哀悼至らざるなかりき。而して、サウセー獨り謂へらく、「彼は決して天折せりと云ふべからず。彼の死、豈痛哭すべきものならんや。大効既に成りて、偉勳人心を照す、以て悔なかるべく、光榮至らざるなく、聲譽世を動かす、何の悲むべきものか之れあらん」と、之れ、其の眞の偉人を評せる至言にあらずや

新 光

雨 峰

時のながれ 限り知られず

遠く遠く 歴史の塚に

消えてゆくか 過去の過去には

黒きとばり

あとも見えす

さはれ今ぞ

巖戸ひらけ

天地ともに

温かき血

冷えし人ら

人の齡

消ゆるとても

かへつてちかし

一輪一羽

色とこわね

榮をきそふ

活ける世をは

空の雲も

十重に二十重に

闇ぞ横たふ

蘇かへりにける

光り閃きて

呼吸ぞ新らし

胸にぞ湧きて

活ける如し

永き過去に

望める岸

今の時こそ

花さき鳥なく

出づる旭と

尊くゆかし

とほくとてか

海の波も

平和らけく

うたへようたへよ春の光りの

めくみふかき

かきりわらぬ

一つになりぬ

妙なるちから

今日のめくみを

